

# 言葉との邂逅

ターニング・ポイント フリッチョフ・カブラ著 工作舎

## 我々は、いま、ターニング・ポイントに さしかかっている

人生において、困難な問題に突き当たったとき、我々は、何によって解決策を見出すか。

その解決策は、実は、しばしば、逆説的な方法の中にある。

「価値観」の転換。

すなわち、「世界をどう変えるか」を考える前に、「世界をどう見るか」の視点を転換すること。その方法は、ときに不思議なほど有効に、問題を解決する。

例えば、職場における人間関係。その苦労の中で、我々は、当初、職場の状況を変えようと悪戦苦闘するが、問題は解決しない。しかし、あるとき、ふと、これは、自らが成長するために与えられている経験だと気がつく。そのとき、なぜか、心が定まり、相手への感謝が芽生え、人間関係が改善することがある。

このように、「価値観」の転換による問題の解決は、我々の人生において、一つの叡智とでも呼ぶべき素晴らしい方法であるが、実は、それは、我々人類の直面する諸問題の解決においても、大切な叡智である。

フリッチョフ・カブラの著作、『ターニング・ポイント』は、まさに、その叡智を教えている。

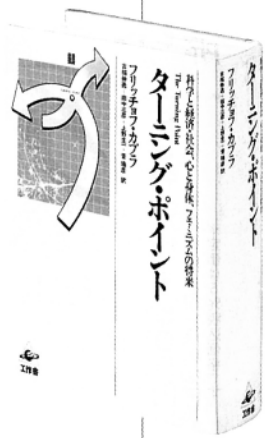
例えば、いま、人類全体が直面している地球温暖化問題。その解決のために、我々は、自然エネルギーなど、新たな技術の開発を進め、排出権取引など、新たな制度の導入に取り組む。

しかし、この問題の本質的な解決は、むしろ、そうした技術の開発や制度の導入ではなく、我々の社会の根本にある、文化や価値観の転換にこそある。

では、我々が転換すべき価値観とは何か。いかにして、その価値観の転換を実現するか。この著作は、そのことを、物理学、生物学、医学、心理学、経済学など、広汎な領域における知のパラダイム・シフトとして語る。

一九八二年にこの著書で語られた、古い機械論パラダイムから新たな生命論パラダイムへの転換。それは、いまもお、我々人類に強く求められている。

なぜなら、現在の人類が直面する地球環境の破壊、戦争とテロの続発、世界全体の経済危機といった諸問題は、すべて、世界を巨大な機械の如きものと考え、科学や技術を使って環境や社会、経済や市場を意のままに操作できるとの幻想と願望に、根深く起因しているからである。



されば、これらの諸問題を真に解決するためには、まず何よりも、世界を有機的な生命体として見つめ、環境や社会、経済や市場という生態系の創発と進化を促していく生命論パラダイムへと、社会の価値観の転換を図っていかねばならない。

そして、もし、その覚悟を持って冒頭の言葉を読むならば、いま人類が直面している深刻な危機もまた、実は、人類の壮大な成長のために与えられた、稀有の機会であることに気がつく。



田坂広志  
多摩大学教授 ソフィアバンク代表

# BOOK